

平成 28 年度 事業報告書
(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を以下のとおり実施した。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 201 ヶ所に募集案内を郵送した。4 月 1 日～5 月 31 日まで公募したところ、66 件の申請があったが、選考前に申請取下げが 6 件あり、審査対象は 60 件であった。

6 月 27 日開催の選考委員会において慎重に審議し、採択 10 件と補欠 2 件を選考した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が平成 28 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を下記表のとおり決定し、助成金を交付した。辞退者はなく、採択された 10 件が助成対象者となった。

助成件数 10 件、助成金交付総額 1,640,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
今井 義人 助教 筑波大学大学院システム情報工学研究科	8th International Conference on Ubiquitous and Future Networks (オーストリア)	18 万円
池田 直史 博士前期課程 2 年 名古屋大学大学院情報科学研究科	15th International Conference on Computer Helping People with Special Needs (オーストリア)	18 万円
石井 晃 博士前期課程 1 年 筑波大学大学院システム情報工学研究科	SIGGRAPH2016 (アメリカ)	16 万円
青木 花純 博士前期課程 1 年 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	IEEE World Congress on Computational Intelligence (カナダ)	16 万円
錦見 亮 修士課程 1 年 京都大学大学院情報学研究科	17th International Society for Music Information Retrieval Conference (アメリカ)	16 万円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
藤重 雄大 修士課程 2 年 九州大学大学院システム情報科学府	41st International Symposium on Mathematical Foundations of Computer Science (ポーランド)	18 万円
馬場 慧 修士課程 1 年 京都大学大学院情報学研究科	27th International Conference on Database and Expert Systems Application	18 万円
曹 洋 博士後期課程 3 年 京都大学大学院情報学研究科	42nd International Conference on Very Large Data Bases - PhD Workshop (インド)	12 万円
渡部 宏樹 博士課程 1 年 奈良先端科学技術大学院大学	INTERSPEECH 2016 (アメリカ)	16 万円
大原 直之 修士課程 1 年 東京工業大学工学院情報通信系	23rd IEEE International Conference on Image Processing	16 万円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 201 ヶ所に募集案内を郵送した。4 月 1 日から 5 月 31 日まで公募したところ、3 件の申請があった。

申請者別： 受入れ者による申請 1 件 外国人研究者本人による申請 2 件

目的別： 調査・共同研究目的 2 件 国際会議参加目的 1 件

6 月 23 日開催の選考委員会において慎重に審議し、1 件を採択した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果の報告を受け、理事長が平成 27 年度外国人研究者交流助成金交付対象者を下記のとおり決定し、助成金を交付した。

助成件数 1 件、 助成金交付額 120,000 円。

外国人研究者氏名・所属	受入れ機関	出発地	助成金額
Dao Than Toan ベトナム交通運輸大学 講師	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	ベトナム	12 万円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学戦略的研究フォーラム(SSR-Joint Forum for Strategic Software Research)と称し、産学の研究者が活発に交流する調査研究グループによる、ワークショップの開催、海外からの研究者の招聘及び国際会議への派遣を中心に研究交流助成を行った。

(1) 募集・選考

助成募集要項を財団ウェブページに掲載するとともにソフトウェア関係学会のメーリングリストに配信し、4月21日～5月20日まで対象テーマを公募したところ、5件の申請があった。なお、申請は主査となる大学等学術研究機関の研究者が行うものとした。6月1日の特定分野研究交流助成(SSR)運営委員会において慎重に審議され、2件が採択された。

(2) 決定・交付

SSR運営委員会の選考結果を受け、理事長が平成28年度特定分野研究交流助成として2件の助成対象テーマ及び助成金額を決定した。対象期間は平成28年4月1日～29年3月31日。助成件数 2件、助成金交付総額 2,400,000円。

(3) 対象分野及び各活動内容

対象研究テーマと活動内容はそれぞれ以下のとおりとなった。

①複雑なネットワークソフトウェアシステムにおけるセキュリティ&プライバシー・エコシステムの調査研究 (交付額 1,200,000円)

グループメンバー: (主査) 鷲崎弘宜(早稲田大学教授)

大久保隆夫(情報セキュリティ大学院大学)、小形真平(信州大学)、海谷治彦(神奈川大学)、櫛山淳雄(東京学芸大学)、吉岡信和(国立情報学研究所)、Eduardo Fernandez (Florida Atlantic University)、Yann-Gaël Guéhéneuc (Ecole Polytechnique de Montreal)、Foutse Khomh (Ecole Polytechnique de Montreal)、鹿糠秀行・吉野雅之・山本暖(日立製作所)加藤岳久(東芝)

②超上流を重視したプロジェクトマネジメント改善フレームワークの調査研究とその拡張

(交付額 1,200,000円)

グループメンバー: (主査) 清雄一(電気通信大学助教)

菊島靖弘(南山大学)、長瀬裕和・浅田幸則・長野岳彦・内田吉宣(日立製作所)、武田真人(とめ研究所)、

(4) 成果の報告

平成27年度SSR全体報告会を6月1日、国立情報学研究所(東京都千代田区)において行った。また、別途ウェブページ上で成果報告を公開した。

なお、平成28年度に関する報告会は平成29年6月27日に開催する。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC)開催

競技開催費 11,942,731 円

ACM(国際計算機学会)が年 1 回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選として ICPC2016 つくば大会を筑波大学と共同で開催した。

①経緯

前年に引き続き、筑波大学、茨城県及びつくば市との共催について、財団 ICPC 運営委員会の決議を経て、理事長が 2016 つくば大会の開催を決定した。

②実施概要

日時：平成 28 年 10 月 15 日～16 日

場所：つくば国際会議場(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

主催：ACM-ICPC つくば大会実行委員会、筑波大学、(公財)情報科学国際交流財団

実行委員長：亀山幸義(筑波大学教授)

審判長：近山隆(東京大学名誉教授)

内容：大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成 29 年 5 月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、インターネットを利用して日本国内予選を実施し、本選はつくば国際会議場の会場で、インターネットを利用した国内予選を通過したチームと外国チームが一堂に会して行った。出題、進行等についてはすべて英語で行った。

参加数：国内予選(6 月 24 日インターネットを利用して開催)・・・ 93 校 384 チーム

つくば大会本選・・・ 国内 31 校 39 チーム、海外 6 校 6 チーム 計 37 校 45 チーム

(池辺記念奨励枠として、金沢大学、神奈川工科大学、金沢工業高等専門学校の 3 校 3 チームを選抜し、581,311 円を充てた。当該枠の残額は、265,160 円)

結果(大学順位)：1 位上海交通大学(中国)、2 位東京大学、3 位慶應義塾大学

(日本の大学の中からは、東京大学、慶應義塾大学、東京工業大学及び会津大学の 4 チームが世界大会への出場権を得た。)

(2) ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

①ICPC 世界大会への派遣(コーチ及び選手)

派遣補助 4 チーム、計 1,130,134 円。

平成 27 年度の地区予選大会(ICPC2015 つくば大会)で選ばれた 4 チーム(東京大学、会津大学、大阪大学及び京都大学)を 5 月 15 日～20 日にプーケット(タイ)で開催された ICPC 世界大会へ派遣した。世界大会は 128 チームが参加し、派遣したチームの成績は、東京大学 14 位、京

都大学 28 位であった。

②ICPC 世界大会への派遣(指導者)

派遣 2 件、計 411,532 円。

前述の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、財団 ICPC 運営委員・石畑清教授(明治大学)及びICPC2016 つくば大会実行委員長・亀山幸義教授(筑波大学)を派遣した。

③ICPC アジア地区予選への派遣

派遣補助 2 チーム、計 400,000 円。

国内予選 1 位の東京大学(sleep 18000)をアジア地区バンコク大会(タイ、11 月 13 日開催)へ派遣し、優勝した。国内予選 2 位の慶應義塾大学(Running)はジャカルタ大会(インドネシア、11 月 16 日開催)へ派遣、5 位となった。

(3)ICPC に関わる予備練習会等の開催

過去に行われた ICPC への参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

①本チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標に、9 月 2 日～5 日にわたり国立オリンピック記念青少年総合センターにおいてつくば大会に向けた強化合宿を行った。

参加者:選手 48 名(18 大学)、スタッフ 9 名計 57 名 開催補助費:250,000 円

②9 月 4 日に LINE 社会議室(東京都渋谷区)及び 9 月 5 日に KLab 社会議室(東京都港区)において模擬練習会を行った。

(4)ICPC2017 開催

12 月 3 日の ICPC 運営委員会において、開催校として筑波学院大学を選定、大会委員長に高藤清美教授(筑波学院大学)を選任し、平成 29 年 12 月 16 日～17 日につくばカピオ(つくば市)におけるつくば大会開催を理事長が決定した。

以上